

神戸だより

台湾交流支援の会 2018.09発行 Vol.11

< 神戸の今 : 防災の日 > 桑田 邦憲

9月1日は防災の日です。

1959年(昭和34年)9月26日、戦後最大の台風被害をもたらした「伊勢湾台風」が上陸しました。これが契機となって、翌年、地震や風水害等に対する準備や心構えなどを育成するため、防災の日が創設されました。9月1日という日付は、大正12年(1923年)9月1日に発生し、10万人以上の死者・行方不明者を出した『関東大震災』に由来しています。この防災の日には全国各地で避難訓練や防災の講習会が開かれています。

日本は自然災害の多い国で、ある資料によると全世界で起こったマグニチュード6以上の地震の20.5%が日本で起こり、全世界の活火山の7.0%が日本にあります。また、全世界で災害で死亡する人の0.3%が日本、全世界の災害で受けた被害金額の11.9%が日本の被害金額となっています。今年も全国的な異常高温とともに6月以降、大雨、台風、地震に次々と見舞われ大きな被害が出ました。



東京都の地下貯水空間
地下50m 長さ6.3 km

こうした自然災害に対し政府、自治体も少しでも被害を少なくするために色々な対策を立てています。防潮堤のかさ上げ、建物を地震に強くするための補助、がけ崩れを予防するための土木工事、河川の付け替え、自家発電設備充実の促進等を実施し、更に久留米市や東京都などでは川の氾濫を防ぐために地下に巨大な貯水空間を設けています。また各市町村では住民に災害MAPを配布し、自宅がどんな災害に逢いやすい地域か、災害の時にはどの避難所に行けば良いかを地図で分かりやすく表示しています。



各戸に配られる災害マップ

一方家庭では災害に備えて数日分の食料、水、乾電池、薬、ラジオなどを用意している家も増えてきました。このような厳しい自然の中でも色々と準備をし、災害に逢っても冷静に行動し、決してあきらめないのが日本人の特徴ではないでしょうか。

< 私のふるさとの阿波踊り > 井上 美恵子

私は徳島県で誕生しました。特別有名な観光地も無い地味な田舎町です。その徳島が一年で一番輝くのが8月の阿波踊りです。



8月12日から15日までの4日間の人出は100万人以上、踊り子は10万人が繰り出します。

徳島市中心街一円が踊りの渦に巻き込まれ興奮のつぼと化します。



「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにやそんそん」のお囃子どおり踊る阿呆となって阿波徳島の心意気を爆発させます。

私も物心ついた頃から親の踊りを親ながら見よう見まねで覚えたものです。女踊りと男踊りが有り、父親が踊る男踊りはとてもカッコよかったです。腰を低く落として足を大きく外に向けて手と同じ方向で自由奔放に踊ります。

つま先で立って2拍子で踊る女踊りは集団でこそ魅せられます。

普段は子育てに追われている母が編み笠を目深にかぶって少し顔を隠し気味に踊る姿はとてもきれいに見えたものです。

今は神戸に暮らしていてもやはり8月の声を聞くと心はふるさとに飛んでいます。今年体力がなくて踊りに帰れなかったけど来年は是非体力をつけて踊りに帰りたいと強く思っています。



< 地蔵盆の意味(地蔵盆とは) > 小林 美津子

台湾にも地蔵尊(地蔵庵本堂)があるそうですが神戸の地蔵盆の紹介をします。



地蔵盆とは、8月23日、24日に行われる、子供の無病息災を願った地蔵菩薩のお祭りのことで、主に関西地方で盛んで、関東では見られることが少ない風習の一つです。

お寺や神社のお祭りとは異なり、街角のお地蔵様のお祭りです。

お盆の時期に行われることから、その名前がついたといわれています。



町のお地蔵様をきれいに洗って、前垂れをつけ替えたりおめかしして、こどもの名前入りの灯笼や供物をあげて、付近の家なども提灯で灯りをとします。

子供のためのお祭りで、夕方にはこどもたちが浴衣を着たりして街角のお地蔵さまに線香やろうそく等をあげておまいりしてから供物のお下がりのお菓子をいただきます。

